# 第116回
# 品質管理シンポジウム（QCS）

Quality Control Symposium

【基調講演】
（一財）日本科学技術連盟　理事長
**佐々木 眞一 氏**

【講演1】
㈱EARTHBRAIN　代表取締役社長
**小野寺 昭則 氏**

【講演2】
㈱ブランドデザイン　代表取締役
㈱ジェイテクト　社外取締役
名古屋工業大学　産学官金連携機構
プロジェクト教授
**加藤 雄一郎 氏**

【講演3】
㈱ジェイテクト　取締役社長
**佐藤 和弘 氏**

【講演4】
㈱竹中工務店　執行役員
**原田 哲夫 氏**

【講演5】
トヨタ自動車㈱　モノづくり開発統括部　主査
日本科学技術連盟「品質経営研究会」委員
**鈴木 浩佳 氏**

【特別講演】
旭酒造㈱　会長
**桜井 博志 氏**

日 程：2023
## 11/30 Thu ~ 12/2 Sat

会 場：大磯プリンスホテル
主 催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後 援：一般社団法人 日本品質管理学会
WEB： https://www.juse.jp/qcs/

テーマ：日本の産業競争力向上を実現する
# これからの品質経営
## ～品質経営のパラダイムシフト～

メインテーマ

# 日本の産業競争力向上を実現するこれ

## 趣旨

**佐々木 眞一 氏**
一般財団法人
日本科学技術連盟
理事長
第 116 回
品質管理シンポジウム
主担当


終戦後、荒廃と疲弊の中から出発した日本は、戦後まもなく米国から真摯に品質管理を学び、それを日本の国民性や企業文化に合わせて進化させてきたことにより、経済大国としての名を確固たるものにすることができました。

その結果、“made in JAPAN”は現在でも高品質の代名詞となっています。

しかし、バブル経済の破綻を分岐点として日本の産業競争力は低下し、以下のような日本経済の問題点も次々と露呈していきました。

a.お客様の価値観の中心が、物質的充足から精神的満足へ移行したことへの対応の遅れ
b.IT革命への乗り遅れ、事務、技術職業務の効率化の遅れ
c.新興国の技術力向上による製造業の優位性喪失

また、多くの企業では品質管理の対象を狭義の品質として捉え、経営トップにとっても、品質が重大な経営の関心事とは認識されなくなり、“品質危機”といわれる状況に陥っているともいえます。

このような現状を打破するために、日科技連では2017年からQCSにて「顧客価値創造と組織能力向上の両輪を回していく必要性」についての議論を積み重ねてきました。また、期を同じくして、「ビジネスモデルで先行し、現場力勝負に持ち込めば日本の産業は勝てる」という坂根正弘氏の発言を受け、経営トップの関心事として「品質」を広義に捉え、「品質経営」を実践するトップの経営と品質に関する議論の場として、「品質経営懇話会（現:企業価値向上経営懇話会）」を立ち上げ検討を重ねてきました。

2019年の109QCSでは、「これからの品質経営の在り方」についての議論を深め、日本が国際競争に勝ち残っていくための取組、方向性を議論し、全参加者の総意として「令和大磯宣言」を発出しました。これは、これからの品質経営は、企業存在価値を最大化していくために、顧客（社会）価値を創造し、それを実現するための組織能力を獲得・向上していく必要があるという内容であり、今後の日本企業生き残りのために必要な考え方です。

「令和大磯宣言」を受け、「品質経営研究会」を設立し、品質経営懇話会のアウトプットを一般解化し品質経営の要素として確定し形式知として残すとともに、より具体的な考え方、方法論、手法の検討も進めてきました。

品質は「モノの出来栄え」ではなく、「社会や顧客のニーズを満たす度合い」であり、国際競争に勝ち抜くため「社会やお客様に寄り添いそのニーズの変化を的確に捉えた価値創出を経営方針に反映し、最新デジタル技術とTQMによる効率的な運営力で実行する」ことの重要性を打ち出し、その経営行動のヒアリングも進めてきました。

**本シンポジウムでは、「令和大磯宣言」後の日科技連での取り組みや、現状の議論の内容に加え、品質経営（顧客価値創造＋組織能力の獲得・向上）に取り組んでいる企業での実践事例を通じて、今後の日本企業が生き残っていくための具体的な提案をいたします。モノからコトへと言われる価値観の変化に素早く対応し業績を上げている企業が実践する「コト価値時代の品質経営」と「それを支えるTQM」について、多くの皆様のご意見をいただきたいと思います。**

## プログラム

**開催期日：2023年11月30日（木）～12月2日（土）**
**会　　場：大磯プリンスホテル**

※テーマ及びプログラムは変更になる場合があります。
※組織名・役職は2023年9月現在の表記になっております。

| 月日 | 時　間 | 科　　目（講演テーマは仮） | 講演者（敬称略） |
|---|---|---|---|
| 11/30（木） | 19:00～20:10 | **〈特別講演〉勝ち続ける「仕組み」をつくる伝統の技のイノベーション ～挑戦を続ける獺祭の逆境経営～** | **桜井 博志**<br>旭酒造㈱　会長 |
| | 20:10～20:30 | 質疑・応答 | |
| | 20:30～22:00 | GD(1)、談話室 | |
| 12/1（金） | 8:30～ 8:40 | 主催者挨拶 | **小野寺 将人**<br>(一財)日本科学技術連盟　専務理事 |
| | 8:40～ 9:10 | **〈基調講演〉116回品質管理シンポジウムの趣旨、ねらい これからの品質経営の在り方の提案** | **佐々木 眞一**<br>(一財)日本科学技術連盟　理事長(116QCS主担当) |
| | 9:10～ 9:15 | 入替（5分） | |
| | 9:15～10:00 | **〈講演1〉ビジネスモデルで先行し現場力の勝負に持ち込む EARTHBRAINの実践** | **小野寺 昭則**<br>㈱EARTHBRAIN　代表取締役社長 |
| | 10:00～10:15 | 質疑・応答 | |
| | 10:15～10:25 | 休憩（10分） | |
| | 10:25～11:15 | **〈講演2〉イシュー別 機能連携管理のすすめ ～ビジネスモデルで先行し、現場力勝負に持ち込む新たなプロセス志向～** | **加藤 雄一郎**<br>㈱ブランドデザイン 代表取締役<br>㈱ジェイテクト　社外取締役<br>名古屋工業大学 産学官金連携機構 プロジェクト教授 |
| | 11:15～11:30 | 質疑・応答 | |
| | 11:30～11:35 | 入替（5分） | |
| | 11:35～12:20 | **〈講演3〉JTEKT REBORN** | **佐藤 和弘**<br>㈱ジェイテクト　取締役社長 |
| | 12:20～12:35 | 質疑・応答 | |
| | 12:35～13:30 | 昼食休憩（55分） | |
| | 13:30～14:15 | **〈講演4〉竹中工務店におけるホスピタリティ・デザインの取り組み ～京都東山計画（山荘 京大和・パークハイアット京都）における価値創造を通じて～** | **原田 哲夫**<br>㈱竹中工務店　執行役員 |
| | 14:15～14:30 | 質疑・応答 | |
| | 14:30～14:35 | 入替（5分） | |
| | 14:35～15:15 | **〈講演5〉品質経営実践に向けた日科技連「品質経営研究会」からの提言** | **鈴木 浩佳**<br>トヨタ自動車㈱　モノづくり開発統括部　主査<br>日本科学技術連盟　「品質経営研究会」　委員 |
| | 15:15～15:30 | 質疑・応答 | |
| | 15:30～15:45 | GD会場へ移動・休憩（15分） | |
| | 15:45～18:00 | GD(2) | |
| | 18:00～19:00 | 夕食 | |
| | 19:00～20:15 | GD(3) | |
| | 20:15～21:30 | 談話室 | |
| 12/2（土） | 8:30～10:00 | GD報告（10分×8班　※予備10分） | 司　　会：加藤 雄一郎<br>オーナー：佐々木 眞一<br>報　　告：各班リーダー |
| | 10:00～10:15 | 休憩 | |
| | 10:15～11:35 | 総合討論 | |
| | 11:35～11:50 | 第116回 品質管理シンポジウム　まとめ | 佐々木 眞一 |
| | 11:50～12:00 | 次回（第117回）品質管理シンポジウム案内 | 棟近 雅彦　117QCS主担当組織委員 |
| | 12:00～ | 昼食・解散 | |

# からの品質経営 ～品質経営のパラダイムシフト～

## 講演概要

### 11/30（木） 特別講演

**勝ち続ける「仕組み」をつくる伝統の技のイノベーション**
**～挑戦を続ける獺祭の逆境経営～**

**桜井 博志 氏**

旭酒造㈱　会長

山口の山奥の小さな酒蔵である旭酒造株式会社。その小さな酒造会社が1990年代に発売を開始した、日本酒の「獺祭（だっさい）」が純米大吟醸の販売量で日本一となり、アメリカやヨーロッパ・アジアなど、世界30の国と地域へと輸出拡大を果たしました。そして、初の海外生産拠点となるニューヨーク近郊ハイドパークに酒蔵を建設し、現地生産による新たなブランド「DASSAI BLUE」をアメリカで発売することになりました。今回の講演では、逆境をチャンスに変えて成功に繋げた体験談をお話します。

### 12/1（金） 基調講演

**116回品質管理シンポジウムの趣旨、ねらい**
**これからの品質経営の在り方の提案**

**佐々木 眞一 氏**

（一財）日本科学技術連盟　理事長

社会やお客様の価値観が変化しそれに対応して産業構造と事業主体の変化が起きております。第109回のQCSで令和大磯宣言を発出して以来、その対応について議論を重ねてきました。今回、第116回のQCSの議論は品質経営を支えてきたTQMについて、価値創出プロセスの変化の下でその活動要素を強化すべきポイント、新たに追加する活動要素について、品質経営研究会で先進的企業の取り組みをベンチマークし議論を重ねた成果に基づく提言を致します。価値創出のプロセスを経営者、管理者、実務者とプロセスの遂行者レベルで重層的に捉え、そのプロセスが的確に機能する為の組織能力のあり方を新たな論点として取り上げます。

### 12/1（金） 講演 1

**ビジネスモデルで先行し現場力の勝負に持ち込む**
**EARTHBRAINの実践**

**小野寺 昭則 氏**

㈱ EARTHBRAIN　代表取締役社長

2010年、経営トップから1枚のメモが下る。

「優れた技術があっても、それを活かすビジネスモデルがなければグローバルマーケットでの競争には勝てない。日本は一般的に「技術で勝ってビジネスで負ける」とよく言われるが、このビジネスモデルはトップダウンで創出/変革していくべき。」

では、ここで言う「ビジネスモデル」とは、何をどうすることなのか?

それから13年後、EARTHBRAIN社は「安全で生産性が高くスマートでクリーンな未来の現場をお客様と共に創造する、スマートコンストラクション。」をビジョンに掲げ、その実現に向けて必要なオペレーションシステムを現在も継続的に開発中です。

本講演ではこの一連の開発において、戦略要素レベルのプロセスが果たす役割の重要性を、皆さんと一緒に考えたいと思います。

### 12/1（金） 講演 2

**イシュー別 機能連携管理のすすめ**
**～ビジネスモデルで先行し、現場力勝負**
**に持ち込む新たなプロセス志向～**

**加藤 雄一郎 氏**

㈱ブランドデザイン　代表取締役
㈱ジェイテクト　社外取締役
名古屋工業大学 産学官金連携機構
プロジェクト教授

良い結果は、良いプロセスからしか生まれない。ただし、一口に価値創出プロセスといっても、「戦略要素レベル」「機能連携レベル」「業務遂行レベル」など複数層が存在します。

機能連携レベルと業務遂行レベルの二層間に着目したマネジメントは既にすこぶる強い。強化すべきは、戦略要素レベルと機能連携レベルの二層間。第100回品質管理シンポジウムで提言された「ビジネスモデルで先行し、現場力勝負に持ち込む経営」とは、組織を挙げて、全員参加で、三層全体を作り込むことだと考えます。そこで、戦略要素レベルを起点として機能連携レベルのプロセスを作り込むべく「イシュー別 機能連携管理」に焦点を当てて、その可能性をみなさまと考えてまいります。

### 12/1（金） 講演 3

**JTEKT REBORN**

**佐藤 和弘 氏**

㈱ジェイテクト　取締役社長

弊社は2020年3月期決算において、2006年光洋精工と豊田工機が合併し、ジェイテクトが誕生してからリーマンショック以来の赤字を計上しました。赤字決算後、コロナ禍の2020年6月、社長に就任することとなり、とにかく赤字から早く脱却し、『社員が10年後、20年後に安心して働ける会社』を目指し、JTEKT REBORNに挑戦してきました。手順として、徹底的に弱みを分析し、外科的治療、内科的治療、漢方薬的治療を段階的に実施してきました。並行して、各グループ企業へのガバナンスを強化、彼らが有する高技術なシーズ群を活用した未来への種まきも行ってきました。その結果、生産回復、円安という追い風もあり、黒字化達成と右肩上がりの成長を続けると共に新たな事業への種まきも出来ました。現在は、グループ企業と共に様々な分野の"世界一"を合言葉に活動中です。上記JTEKT REBORNの取り組みをご紹介します。

### 12/1（金） 講演 4

**竹中工務店におけるホスピタリティ・デザインの**
**取り組み　～京都東山計画（山荘 京大和・パークハイアット京都）における価値創造を通じて～**

**原田 哲夫 氏**

㈱竹中工務店　執行役員

1000年の歴史に彩られた京都・東山山麓において歴史的建築・庭園を保存しながらトップブランドのラグジュアリーホテルを導入し、これまでにない新しい体験の創造を目指した「京都東山計画（山荘 京大和・パークハイアット京都）」での実践を通じて「ホスピタリティ・デザイン」について語ります。

合わせて、最新のBIM・デジタル技術の活用による建築分野における新価値創造および新しい顧客体験の創造の現状についてお話しします。

### 12/1（金） 講演 5

**品質経営実践に向けた**
**日科技連「品質経営研究会」からの提言**

**鈴木 浩佳 氏**

トヨタ自動車㈱　モノづくり開発統括部　主査
日本科学技術連盟「品質経営研究会」委員

第109回品質管理シンポジウムにおいて令和大磯宣言が採択され、品質経営とは顧客価値創造と組織能力獲得・向上の両輪の取り組みにより企業価値を最大化することであることが宣言されました。そこでこれら両輪の取り組みのプロセスを具体化し、実践に必要なツールを整備し、好事例を取り揃えることなどを目的に、2020年秋に品質経営研究会（委員長:日本科学技術連盟 佐々木理事長）が組織されました。本講演では、研究会成果である品質経営実践のためのプロセスや勘所、さらには有益な参照情報、例えば品質経営実践に必要な組織能力の一般解などをご紹介します。本報告内容が一社でも、一人でも多くの皆様による品質経営実践の道標や活力剤になれば、加えて、本講演後に実施される各グループディスカッションにとって有益なインプット情報になれば幸いです。

# 116QCS グループ討論　GD テーマ、趣旨と論点

*敬称略

## 第1班　価値創出プロセスを構築し、持続的に進化させるためのトップの役割

**鈴木 浩佳（トヨタ自動車㈱ モノづくり開発統括部 主査），廣田 好彦（コニカミノルタ㈱ DW-DX事業本部 シニア・アドバイザー）**

**趣旨**

顧客価値創造を行うためには顧客との価値共創の活動が欠かせません。その活動を多くのパートナーとも連携しながら実施していく一連のプロセスを価値創出プロセスと今回呼ぶこととします。この価値創出プロセスに沿って、顧客の行動連鎖の中の様々な課題を達成することで顧客にとっての価値は高まり、結果として顧客と自社との関係性が強化され企業価値も高まっていく、そのようなWIN-WINの関係を築くことが品質経営の目指す姿です。

そこで第1班では、価値創出プロセスを新たに構築ないしは既存のプロセスから遷移させるために、全員参加のもと運営するために、環境変化やリスクに対応しながら進化させていくために、トップが果たすべき役割について議論します。まず最初に、価値創出プロセスの構築や持続的な進化のために必要な経営者の行動について議論します。続いて、その実行の際に起こりうる障害・課題を洗い出し、そのうえで障害克服・課題達成のために経営者に求められるさらなる行動や経営のしくみについて検討します。以上の内容を、過去の品質経営シンポジウムのグループディスカッションの結果を起点に議論します。

**論点**

❶価値共創を担う価値創出プロセスを新たに構築し、さらには、全員による運営や環境変化・リスク対応を行っていくためのトップの役割は何か。
❷上記の役割を果たすうえで想定される障害や課題は何か。
❸障害克服や課題達成のために必要な経営者の行動やしくみは何か。

## 第2班　価値創出プロセスの高度実現に向けた、組織内部のインターナル・コミュニケーション開発の重要性

**澤田 善郎（㈱澤田設計事務所 代表取締役），冨岡 桂子（㈱情報工場 取締役）**

**趣旨**

多くの企業においては複数の組織が存在し、事業のパフォーマンスを最大化するため各組織が連携して企業に対して各々の貢献が必要不可欠です。しかし、複数の組織を持つ企業（特に大企業）において組織間連携に不可欠な「組織間の継続的な対話」に課題がないという企業はほとんどないではないでしょうか。どこかで自部門のみの目標に固執して全体との連携を失って自部門の部分最適を優先していることはあったりしませんか？皆さんの組織内部のコミュニケーションで課題となっていることや、逆にうまく連携がとれている事例などを共有しながら、より良いインターナル・コミュニケーションの実現を目指しましょう。そして当グループセッションにおいては潤滑な組織間連携だけではなく、各組織の対話による機能連携が新たな価値を創出する可能性や、内部活性による今までにない価値創出のプロセス形成を実現するインターナルマーケティングの実装に向けて皆さんで議論致しましょう。

**論点**

❶組織間連携における各社の課題や連携事例の共有。
❷組織間を乗り越えて取り組まなければならないテーマとは何か。
❸組織連携して共同で取り組み創出しなければならない価値プロセスとは何か。

## 第3班　価値創出プロセスの持続的進化を支えるIT活用

**後藤 英司（㈱EARTHBRAIN　PMO），阿部 賢一郎（ダイヤモンドエレクトリックホールディングス㈱ 執行役員CQO 品質保証本部長）**

**趣旨**

顧客視点に立った価値とは何でしょうか？利用者（例：消費者）であるとき、私たちはどの様なことを期待し何に価値を感じるでしょうか？BtoB、BtoCを問わず私たちのビジネスの場において最も重要な要素であるこの「価値を創造する」ということに対し、試行錯誤しているのが現実ではないでしょうか？ビジネスの場面において顧客の行動や意思決定プロセスを知り、深く理解することこそが価値創造の肝であり、その一連の行動を「価値創造プロセス」として整備し、持続的に進化させることは我々の今後のビジネスの成功を決定づけるといっても過言ではありません。

第3班では価値創造プロセスをより成功確度の高いものとする為に、また継続的に進化をさせる為の着想点は何か、それを支えるのに有効なIT活用とは如何なるものかに対して議論していきます。

**論点**

❶価値を創出するプロセスとは如何にあるべきか。
❷そのプロセスの持続的な進化にはなにが必要か。
❸価値創造プロセスとその進化に有効なITとは。

## 第4班　「様々なプレーヤーが参画し価値創出を行う」ための新たなプロセスの構築

**杉江 幸治（コニカミノルタ㈱ 上席執行役員 品質本部長），江間 富世（パナソニック オペレーショナルエクセレンス㈱ 品質・環境本部 安全・品質部 品質企画課 課長）**

**趣旨**

従来モノづくりにおける「提供する価値基準が規格化され、その達成のプロセスが論理的で分かり易かった時代（提供価値をどう差別化するかが議論の中心）」から、価値創出には「顧客の価値基準・顧客行動まで延伸される」プロセスが必要になってきている。また、「既存組織形態のもとで標準化したプロセス・自社完結のプロセス」から、「社内に限らずパートナー企業も、更には顧客も参画するプロセス」によって、価値創出（価値提供）が実現されることになります。このような「様々なプレーヤーが参画する価値創出プロセス」の構築のポイント（必要要件や品質保証の勘所など）について議論します。

**論点**

❶顧客価値状況の把握、顧客との継続的な関係構築等、顧客価値創出・価値向上のための新プロセスや要件はどうあるべきか。
❷様々なプレーヤーに対し、目的意識共有や役割分担適正化含め、どのように的確にプロセス構築するか。
❸様々なプレーヤーが参画する価値創出プロセスにおいて品質保証の勘所、TQMの有効性とは何か。

## 第5班　顧客価値創造事業の実現に関わる全ての組織を巻き込んだ方針管理の在り方

**光藤 義郎（（一財）日本科学技術連盟 嘱託），宮野 玲衣（ジーシーインターナショナルAG チーフクオリティマネジメントオフィサー）**

**趣旨**

顧客価値創造を新しい事業として効果的/効率的に推進していくには、新たなプロセスの確立を基本に、これを運用していくための経営資源の確保、組織/機能の改革/再構築、新たな手法/ツール/仕組み/仕掛けの創出が必要となる。これに加えて、バリューチェーン拡大時代においては、この事業の実現に関わる全ての組織を巻き込み、互いに連携しつつ確実にPDCAを回していく仕組みが求められる。第5班では、こういった必要要件のうち、特に、組織運営管理ツールとして位置付けされる「方針管理」に焦点を当て、顧客価値創造に役立つ方針管理の新たな在り方について議論していく。なお、当班の議論にあたっては、2020年より3ケ年に亘って活動した「日科技連 方針管理研究会WG-2」の活動成果である「PT方針管理※1」を討議の際の前提として事前共有させて頂き、その元で、この新たな仕組みを実際の組織に具体的に展開しようとした場合に直面すると思われる様々な問題/課題と、その対応の方向性について議論していきたい。

**論点**

❶PT方針管理を組織に導入する際の問題点/課題は何か。
❷それらの問題点/課題をクリアーするためのキーポイントは何か。

## 第6班　価値創出プロセスがもたらす経営計画の発展可能性

**安藤 淳二（㈱ジェイテクト 事業開発領域 領域長），池田 祐一（JUSEエグゼクティブセミナー企画委員・講師）**

**趣旨**

経営計画において、最も重要なことは、将来業績に対する信頼の獲得。皆様にとって、御社の経営計画は何点でしょうか。良い点・悪い点、それぞれどのようなところが挙げられるのでしょうか。そもそも、経営計画には何が書かれているべきでしょうか。昨今、長期投資家の重要性、人材の流動性が高まり従業員エンゲージメントの重要性が説かれている中で、いかに将来業績づくりを説得力のあるストーリーで語るか、そのために経営計画の中に盛り込むべき要素は何か、一緒に考えてみませんか？ 第6班では、価値創出プロセスに着眼し、既存事業の持続成長、新規事業を成長軌道に乗せられる経営計画策定への発展可能性を議論します。

**論点**

❶そもそも経営計画は誰の何を満たすべきか。
❷そのために経営計画に盛り込むべきストーリーあるコンテンツは何か。

## 第7班　価値創出プロセスの実現に向けた組織機能の新結合

**尾本 勝彦（元パナソニック 品質・環境本部 本部長），大場 重生（㈱EARTHBRAIN バイスプレジデント）**

**趣旨**

顧客価値を創出していく為に、その顧客価値を実現するサービスの開発・提供において徹底した顧客視点、特に、顧客がそのサービスを活用してどのように顧客自身の課題を解決し高次に目標を達成していくかを構想・検証することが非常に重要になる。その場合、サービスとしては顧客には分かり易くしつつも、構成される機能的には高度に組み合わせていくケースが多い。

その場合専門性が必要な開発チームと、顧客視点に立ってサービスを構想・検討・検証していくチームをどのように連携させ、サービス実現のケイパビリティーと、顧客価値の実現の高度化を、合理的、効率的に両立させていくかが極めて重要になる。このプロセスをどう構築し、各専門性を有した組織機能をどう結合・連携させていくべきかを議論します。

**論点**

❶顧客・社会のニーズ（課題解決）に応えるために、どのようにサービス提供を構想・検討すべきか？
❷自社のケイパビリティーを組み合わせて、サービスを開発するためにどのような機能配置にすべきか？
❸そのような組織能力の獲得・向上に向けて、TQMはどのように進化する必要があるのか？

## 第8班　バリューチェーン拡大時代の組織が持つべき能力は何か

**細谷 克也（㈲品質管理総合研究所 代表取締役），中條 武志（中央大学 理工学部 ビジネスデータサイエンス学科 教授）**

**趣旨**

TQM（総合的品質管理）は、顧客・社会の満足を目指して、全員でプロセスの改善・管理に取り組む活動です。

他方、顧客・社会が仕事・生活において困っていることの解決や実現したいことの手助けを求めるようになるにつれて、異なるニーズとコアコンピタンスを持つ複数の組織が密接に連携することが必要になっています。このようなバリューチェーンの拡大、言い換えれば事業において対象とすべきプロセスの拡大に伴って、経営目標・戦略を達成する上で組織が持つべき能力も変わってきます。第8班では、顧客・社会がモノではなくコトを求めるようになる中、それに応える上でどのような組織能力の獲得・向上が求められるのか、組織能力を獲得・向上するための活動であるTQMはどのように進化していく必要があるのかについて議論します。

**論点**

❶顧客・社会のニーズに応えるために、どのようなバリューチェーンの拡大が求められているのか？
❷バリューチェーンの拡大に伴って、組織が持つべき能力はどのように変わるのか？
❸そのような組織能力の獲得・向上に向けて、TQMはどのように進化する必要があるのか？

※1 方針管理研究会WG-2が提唱したプロジェクト型（PT:Project-type）の方針管理のこと。顧客価値創造など、組織として新たに展開するプロジェクト型事業の場合、これに関係する全ての組織を巻き込み、互いに連携し、事業全体を効果的/効率的/重点的に運営/管理していくには、従来の年度方針管理の概念や枠組みだけでは限界があるため、その概念/枠組み等をある程度拡げた形で提唱した新たな方針管理の形を指す。但し、従来から提唱されているプロジェクトマネジメントとの類似点/相違点、メリット/デメリット等を明確化しておく必要がある。

## 確認ください！　品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

| | |
|---|---|
| 品　質　の　定　義 | 顧客及び社会のニーズを満たす度合い |
| 品質保証の定義 | 顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的 |

**「品質」は、モノの出来栄えのことではない**

| | |
|---|---|
| サービス･ドミナント･ロジックの考え方 | 「価値は、顧客がモノをつかいこなすことによってうまれる。顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない」という、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何ができれば喜ぶのか?」という着眼点で考える。 |
| 「コト価値」の考え方 | 顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。<br>提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。<br>つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。 |

## 品質管理シンポジウム会員にご入会ください！

QCSは会員のみが参加できるシンポジウムです

メリット１　講演（トップランナー企業）から、TQM の推進・動機づけに役立つ情報が得られます。

メリット２　グループ討論等で、他社の考え、推進事例等を議論し、課題解決への糸口を見つけられます。

メリット３　参加者同士のコミュニケーションを深める場を多く設定しており、品質経営推進企業幹部との人脈が形成されます。

**入会費用▶企業会員:1口につき年額199,100円（税込み）　団体会員:1口につき年額117,700円（税込み）**

### 入会いただきますと

- **企業会員:無料参加枠2名（トップ枠･通常枠）を確保できます。**
- **団体会員：無料参加枠1名（通常枠）を確保できます。**
- ●無料参加枠以外の方は特別価格（46,200 円・税込み）でご参加いただけます。
- ●本シンポジウムの報文集・実施報告が無料で入手できます。

※日科技連賛助会員とは異なります。QCS 独自の会員制度です。ご入会は、随時受付けております。

## 品質管理シンポジウム　会員企業・団体

※2023年9月現在、50音順　**124社**

1 アート金属工業 ㈱
2 ㈱ アーレスティ
3 ㈱ アイシン
4 アイシン機工 ㈱
5 アイシン軽金属 ㈱
6 アイシンシロキ ㈱
7 愛知製鋼 ㈱
8 アイホン ㈱
9 ㈱ 青山製作所
10 ㈱ EARTHBRAIN
11 ㈱ 麻生
12 ㈱ アドヴィックス
13 ㈱ イシダ
14 NEC プラットフォームズ ㈱
15 ㈱ FTS
16 ㈱ MC システムズ
17 エリーパワー ㈱
18 大塚化学 ㈱
19 オークマ ㈱
20 ㈱ オティックス
21 オムロン ㈱
22 花王 ㈱
23 鹿島建設 ㈱
24 ㈲ 企画システムコンサルティング
25 ㈱ キャタラー
26 京西テクノス ㈱
27 ㈱ 神戸製鋼所
28 コーセル ㈱
29 小島プレス工業 ㈱
30 コニカミノルタ ㈱
31 ㈱ 小松製作所
32 ㈱ コロナ
33 澤藤電機 ㈱
34 サンデンホールディングス ㈱
35 ㈱ シーヴイテック
36 ㈱ GS ユアサ
37 ㈱ ジーシー
38 ㈱ ジーシーデンタルプロダクツ
39 JFE スチール ㈱
40 ㈱ ジェイテクト
41 ㈱ ジェイテクト グラインディングツール
42 ㈱ ジェイテクトサーモシステム
43 芝浦機械 ㈱
44 清水建設 ㈱
45 JUKI ㈱
46 ㈱ 新川
47 ㈱ SUBARU
48 住友理工 ㈱
49 関工業 ㈱
50 積水化学工業 ㈱
51 ㈱ セキソー
52 ソニーセミコンダクタ ソリューションズ ㈱
53 ダイキン工業 ㈱
54 ㈱ 大広
55 ダイハツ工業 ㈱
56 大豊精機 ㈱
57 ダイヤモンドエレクトリック ホールディングス ㈱
58 ダイヤモンド電子 ㈱
59 大和リース ㈱
60 ㈱ 竹中工務店
61 中国化薬 ㈱
62 ㈱ 千代田グラビヤ
63 DMG 森精機 ㈱
64 ㈱ テクノプロテクノプロ・デザイン社
65 ㈱ デンソー
66 ㈱ 東海理化
67 ㈱ 東陽テクニカ
68 東レ ㈱
69 TOTO ㈱
70 （一社）富山県経営者協会
71 トヨタ自動車 ㈱
72 トヨタ自動車九州 ㈱
73 トヨタ自動車北海道 ㈱
74 ㈱ 豊田自動織機
75 トヨタ車体 ㈱
76 トヨタ紡織 ㈱
77 トヨタホーム ㈱
78 長津工業 ㈱
79 ㈱ ニコン
80 西田精機 ㈱
81 日華化学 ㈱
82 ㈱ 日科技連出版社
83 日産自動車 ㈱
84 日産車体 ㈱
85 日本精工 ㈱
86 日本電気 ㈱
87 ㈱ 日本科学技術研修所
88 日本商工会議所
89 日本特殊陶業 ㈱
90 パナソニック ホールディングス㈱
91 パナソニック オペレーショナル エクセレンス㈱
92 ㈱ 羽生田製作所
93 日立 Astemo ㈱
94 ㈱ 日立製作所
95 日野自動車 ㈱
96 ヒロセ電機 ㈱
97 富士フイルム ビジネスイノベーション ㈱
98 富士フイルム マニュファクチャリング ㈱
99 富士電機 ㈱
100 フジミ工研 ㈱
101 フタバ産業 ㈱
102 ㈱ ブリヂストン
103 ぺんてる ㈱
104 ㈱ 保志
105 本田技研工業 ㈱
106 前田建設工業 ㈱
107 ㈱ 前田製作所
108 マツダ ㈱
109 ㈱ マルヤスエンジニアリング
110 丸和電子化学 ㈱
111 三島食品 ㈱
112 三菱電機 ㈱
113 ㈱ 村田製作所
114 ㈱ メイドー
115 名北工業 ㈱
116 安川オートメーション・ドライブ ㈱
117 安川コントロール ㈱
118 ㈱ 安川電機
119 UBE ㈱
120 ユーロフィン FQL ㈱
121 ㈱ ユニバンス
122 楽天グループ ㈱
123 ㈱ リコー
124 リコーテクノロジーズ ㈱

## 参加要領

※詳細は、WEBサイト掲載の「開催要領」をご確認ください。

| | | |
|---|---|---|
| 開催日時 | 2023年11月30日(木)19:00~12月2日(土)12:00<br>(11月30日受付開始17:00~、夕食17:30~) | |
| 会　　場 | **大磯プリンスホテル**<br>〒259-0193　神奈川県中郡大磯町国府本郷 546<br>TEL : 0463-61-1111　FAX : 0463-61-6281 | |
| 参加対象 | 企業の役員、上級管理職の方々他<br>**※是非、今回のシンポジウムテーマ・グループ討論テーマに深い関連のある部門とその役割を担う方々のご参加について、ご検討をお願いします。** | |
| 参加方法 | 集合参加 | 現地(大磯プリンスホテル)へお越しいただき、シンポジウムの全プログラムへ参加可能 |
| | ライブ視聴参加 | PC等で、特別講演(1日目)、基調講演・講演1~5(2日目)、GD報告・総合討論(3日目)を視聴可能 |
| | ※ライブ視聴参加の場合、GD へは参加できません。<br>※ライブ配信の詳細（配信プラットフォーム、推奨環境等）は Web サイトをご参照ください。 | |
| 参加費(税込) | **QCS 企業会員・団体会員**<br>参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の 2 名分、団体会員は通常枠の 1 名分の無料枠をご利用いただけます。<br>※トップ枠を使用されない場合、無料枠は「通常枠のみ（1 名分）」となります。<br>無料枠以外の参加は、参加方法に関わらず、46,200 円／ 1 人の参加費を申し受けます。<br>**一般参加**<br>ライブ視聴参加のみ　99,000 円／ 1 人<br>**団体参加（ライブ視聴参加）**<br>シンポジウムの各講演、GD 報告・総合討論を多くの経営幹部の方々に参加（視聴）いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。<br>◆ 50 名まで …… 550,000 円<br>◆ 51 名~ 100 名まで　… 880,000 円<br>◆ 101 名~ 200 名　… 1,100,000 円<br>※ 201 名以上の場合は、下記までお問い合わせください。<br>**ご請求に関して**<br>参加費のご請求書は、日本科学技術連盟より、お申込みのご連絡担当者様宛にメールで電子発行いたします。 | |
| その他 | **付帯費用（集合参加の場合）**<br>・別途、宿泊費がかかります。<br>・宿泊費のご請求書は、株式会社JTBより、お申込みのご連絡担当者様宛に郵送で発行いたします。<br>・食事代(11月30日夕、12月1日朝・昼・夕、12月2日朝・昼)は参加費・宿泊費に含まれています。<br>・交通費はご自弁ください。<br>※大磯プリンスホテルは電子タバコも含め全館禁煙です。喫煙禁止場所(各居室等)での喫煙が確認された場合、50,000円のクリーニング代が請求されます。 | |

## 最近の主な講演者

(組織名・役職は講演当時の表記になっております)

**第 115 回**

**増本 陽秀 氏**
㈱麻生 飯塚病院
院長

**第 114 回**

**藤井 保文 氏**
㈱ビービット
執行役員CCO
東アジア営業責任者

**第 113 回**

**長谷部 佳宏 氏**
花王㈱
代表取締役
社長執行役員

**第 112 回**

**津賀 一宏 氏**
パナソニック㈱
取締役会長

**第 111 回**

**山本 圭司 氏**
トヨタ自動車㈱
執行役員

**第 110 回**

**樋口 泰行 氏**
パナソニック㈱
代表取締役 専務執行役員
コネクティッドソリューションズ社 社長

## 品質管理シンポジウム組織委員

(五十音順、敬称略)
(組織名・役職は2023年9月現在の表記になっております)

**小笠原 浩**
㈱安川電機
代表取締役会長

**永田　靖**
早稲田大学
教授

**宮本 眞志**
トヨタ自動車㈱
カスタマーファースト
推進本部長

**棟近 雅彦**
早稲田大学
教授

**森　雅彦**
DMG森精機㈱
代表取締役社長

**山田　秀**
慶應義塾大学
教授

## シンポジウム申込方法

**QCS専用Webサイトからお申し込みください。**

お申込みはこちらから **https://www.juse.jp/qcs/app/**

**集合参加一次申込期日:10月16日(月)**

※会場定員を設定しています。一次申込期限前であっても、定員に達した場合は締め切らせていただくことがありますので、お早めにお申込みください。

・集合参加一次申込締め切り後、会場定員に空きがあった場合は、引続き二次申込を実施します。

・ライブ視聴参加の申込締切は、11月13日(月)とさせていただきます。

お申込み QR コード

## シンポジウムに関する問い合わせ先

一般財団法人日本科学技術連盟　品質管理シンポジウム担当(安隨／密／橋本／鈴木(佑))
〒166-0003　東京都杉並区高円寺南1-2-1
TEL:03-5378-1215　E-mail:qcs@juse.or.jp

※ QCS の宿泊に関する費用のご請求については、株式会社 JTB が担当しております。
お問合せの内容によっては、株式会社 JTB より直接ご連絡させていただくケースがございます。